

「机が変われば別会社」とは、2〜3年周期で異動する私たちがしばしば抱く気持ちを端的に表現した言葉です。10年以上の勤務歴を重ねても、初めての部署には経験したことのない仕事が多くありません。国をまたげばなおさらで、少数数の事務所では一人が農業も保健もインフラも環境もとにかく「何でも屋」を務めます。

モンゴルに赴任して、文系一筋の私がインフラ案件を担当することになったのもそんな背景からでした。海を持たない国の道路は物流の生命線。隣接する国々とう道と道をつなぐか、人材は、工法は、資金調達は——遊牧民が羊を追って安全に渡れるのか。悪戦苦闘の末に開通した道路は、以前に比べ3分の1の時間で主要都市間を移動できるようにになりました。開通式の帰路に車窓から見た大草原に沈みゆく夕日は、今でも思い出に残る光景の一つです。

もう一つ——モンゴルで産出される天然アスファルトを原材料に、試験的に村の目抜き通りを舗装する「住民手作り道路」プロジェクトにも関わりました。足利工業大学の桃井徹先生を中心に、何度も住民集を開き、技術者でもない村人たちが総出で石を並べ、簡単な機材で踏み締めていくことをくり返しました。低温下では、アスファルトは亀裂を生じるので、短い夏は真夜中まで工事を続け、冷え込む季節になると村人たちは薪を焚いて路面を温めながら工事をします。この「手作り道路」は2017年3月、インドネシアのバリで開かれた第15回REAAA（アジア・オーストラレーシア道路技術協会）道路会議で、道路と橋梁の傑出したプロジェクトに贈られる「Mino Best Project Award」（生活道路部門）も受賞しました。

道が完成するまでの道のり——「mundi」ではそこそこの読者の皆さまと共有できるように、誌面を作っていく。そんな思いを新たにしました。

広報室広報課長 佐々木美穂

《アンケートのお願い》

プレゼント付き

JICAや記事内容についてのご意見、ご感想をお待ちしております。また、こんな企画を実施してほしいなどのご希望もぜひお寄せください。お寄せくださった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。下記項目をお書き添えのうえ、巻末のアンケートはがき、Eメール、またはファクスでお送りください。

- 氏名 ●住所 ●電話番号 ●年齢 ●性別 ●職業
- 本誌を入手した場所 ●面白かった記事 ●本誌へのご意見・ご感想
- JICAへのご意見・ご質問 ●ご希望のプレゼント番号

*お寄せくださったご意見・ご感想は、本誌やJICAのウェブサイトに掲載する場合があります。あらかじめご了承ください。ご記入いただいた個人情報はプレゼントの発送および誌面の向上に役立てることを以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

◎応募締め切り 2018年12月15日

[2018年11月号のプレゼント]

①



書籍
『世界をつなぐ架け橋』
日本の国際協力60周年を記念した、橋梁建設支援の記録集。
国際開発ジャーナル社・国際協力機構 編集
1名様

②



ミャンマーのお土産
小物ポーチ
2名様

③



「なんとかしなきゃ! プロジェクト」
オリジナルTシャツ
2名様

mundi

NOVEMBER 2018 No. 62
編集・発行: 独立行政法人 国際協力機構
Japan International Cooperation Agency (JICA)
〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25
二番町センタービル
TEL: 03-5226-9781 FAX: 03-5226-6396
URL: <http://www.jica.go.jp/>

制作協力: 株式会社 木楽舎
〒104-0044 東京都中央区明石町11-15
ミキジ明石町ビル6F 『mundi』編集部
TEL: 03-3524-9572 FAX: 03-3524-9675
Eメール: ML_JICAPR@jica.go.jp

- アンケートの送付、定期送本、バックナンバーの取り寄せに関するお問い合わせは木楽舎までお寄せください。
- 本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。



定期送本のご案内

●申込方法

巻末の払込取扱票に、氏名・住所・電話番号・ご希望の送本期間・送付開始月号を明記の上、所定の金額（送料+手数料）を郵便局でお支払いください。入金確認後、発送の手配をいたします。入金から1週間程度かかることもありますのでご了承ください。

*複数冊、またはバックナンバーをご希望の場合は送料が異なりますので『mundi』編集部（木楽舎）までお問い合わせください。

次号予告(2018年12月1日発行予定)

12月号 特集 感染症対策

医療が進歩した今日でも、感染症との闘いは続いています。途上国では、貧困や医療システムの不備、知識不足など、特有の要因が流行を発生させやすくしています。制度設計や住民教育など、多角的な取り組みで感染症に挑む日本の支援に迫ります。



『mundi』バックナンバーはJICAホームページをご覧ください。
<http://www.jica.go.jp/publication/mundi>